

日仏文化シンポジウム

アートと文化が歩む

新たな道 Conférence franco-japonaise
 Les nouveaux chemins
 de l'art et de la culture

2023年10月3日(火) 10:30-18:00

上智大学 四谷キャンパス6号館ソフィアタワー 101 ホール

聴講無料
日仏同時通訳付き

定員500名

「日仏文化シンポジウム：アートと文化が歩む新たな道」開催のお知らせ

開催概要

名称：「日仏文化シンポジウム：アートと文化が歩む新たな道」

日時：令和5年10月3日(火)

開場：10時 開演：10時30分～18時(予定)

会場：上智大学 東京・四谷キャンパス6号館ソフィアタワー101ホール

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
 四ツ谷駅 徒歩5分 JR中央線/東京メトロ丸ノ内線・南北線
 出口：麴町口・赤坂口

主催：文化庁、フランス大使館/アンスティチュ・フランセ、
日本経済新聞社

共催：上智大学
 協賛：大日本印刷株式会社
 協力：株式会社伊藤園

言語：日本語・フランス語(同時通訳付き)

席数：500席

聴講料：無料

申込み締切り：9月20日(水) 17時 *申込み多数の場合は抽選

公式サイト(申込み) <https://culture2023.tokyo/>

シンポジウム終了後、上記サイトにてアーカイブ配信を予定しております。



連携事業 場所：国立西洋美術館(上野)

パリ ポンピドゥーセンター「キュビスムー美の革命展」 <https://cubisme.exhn.jp>

10時30分

日仏の政府代表によるご挨拶

文化庁長官 都倉俊一 / フランス文化省代表者

ウエルカムメッセージ

曄道佳明 上智大学学長

10時40分

基調講演：「アートと文化が歩む新たな道、フランスと日本の展望」

内容： 各登壇者による発言の後、ディスカッション

登壇者：

- **ジュリー・ナルベ（仏）**
ボンピドゥーセンター事務総長
50周年を迎えるボンピドゥーセンターの経営改革を担う、新生ボンピドゥーセンターの戦略リーダー。
- **片岡真実（日）**
国立アトリサーチセンター長、森美術館館長
本年春設立の国立アトリサーチセンターを担う。これまでのミュージアムの在り方から新たなミュージアム像へ。アートの未来像は。
- **ディスカッションモデレーター 小崎哲哉（日）**
京都芸術大学大学院教授、文筆家、プロデューサー
ウェブマガジン『REALTOKYO』を創刊、現在『REALKYOTO FORUM』編集長。数々の展覧会の監修を行う。

12時

休憩

13時30分

フォーラム 1 「クリエイション、アーティストと人工知能（AI）」

人工知能（AI）をはじめとする最新技術とクリエイティブ世界の新たな関係について、技術的、経済的な問いを超えて、社会におけるアートの位置づけと、創作活動におけるアーティストの位置づけについて展望します。AIはアーティストにとって単なるツールの1つなののでしょうか、それとも芸術的行為の概念をより根底から再定義するものなののでしょうか。

登壇者：

- **グレゴリー・シャトンスキー（仏）**
アーティスト、研究者、教育者
フランスとカナダを拠点とするメディアアーティスト。インターネットアートの先駆者であり、1994年にネットアーティスト集団Incidentを設立。
- **福島真人（日）**
東京大学大学院・情報学環教授
科学技術の現場と社会の諸要素との関係（政治、経済、アート等）を広く研究。
- **セレナ・ヴィラタ（仏）**
AI研究者
フランス屈指のAI研究者であり、アートおよび文化におけるAI利用に関するフランス文化省の研究プロジェクトも担当。
- **市原えつこ（日）**
メディアアーティスト、妄想インベーター
日本的な文化・習慣・信仰を独自の観点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を示す作品を制作。
- **モデレーター 徳山拓一（日）**
森美術館アソシエイト・キュレーター
「未来と芸術展」（2019年）、「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」（2022年）など多くの展覧会を担当。

14時50分

休憩

15時00分

フォーラム 2

「文化遺産と文化へのアクセス：最新技術がもたらすものとその課題」

技術革新により、空間と時間を問わず文化遺産にアクセスできるようになり、私たちは文化遺産との関係を考え直すことになりました。このことが市民と文化遺産の関係、そして文化遺産とその周辺環境との関係に与える影響にはどんなものがあるのでしょうか。鑑賞方法、そして文化遺産と文化へのアクセスの大衆化における課題とは何でしょうか。世界の文化のこの巨大なカタログに対し、文化の多様性をどう守ればよいのでしょうか。文化遺産とアートの関係は「体験」によるしかあり得ないのでしょうか。

登壇者：

- **ソフィー・クルジャン (仏)**
研究者、教育者、ネットワーク「Culture(s) de Mode」ディレクター
メディア史博士。パリ・アメリカン大学助教授。準研究員を務める現代史研究所 (IHTP/ CNRS (フランス国立科学研究センター)) で研究セミナー「モードの文化と歴史」主宰。
- **室田秀樹 (日)**
大日本印刷株式会社マーケティング本部文化事業ユニット ユニット長 (兼) DNPアートコミュニケーションズ社長
先端技術やテクノロジーでアート、文化の新たなコンテンツを開発。
- **カラ・レノン・カサノヴァ (仏)**
フランス国立図書館 (BnF) メセナ部副部長、供託基金部長
企業との連携により、テクノロジーを使い、多くの文化遺産、書籍等を保存するだけでなく、「見せる」「体験してもらう」新たな図書館像を模索。
- **ブルーノ・ドゥ・サ・モレイラ (仏)**
Histoverly社 CEO
AR (拡張現実) デジタルコンテンツの制作を専門とするスタートアップ。デジタル技術を使って文化施設や博物館のコレクションを向上させるソリューションを設計・制作。
- **モデレーター 落合陽一 (日)**
メディアアーティスト
境界領域における物化や変換、質量への憧憬をモチーフに作品を展開しながら、幅広い領域で活躍。

16時20分

休憩

16時30分

フォーラム 3

「拡張されたコミュニティ：社会的・技術的イノベーションはいかにして文化を享受する人々の層を広げることができるか」

近年の社会的、技術的イノベーションの数々は、芸術と個人のより水平な関係を通じて、文化とそれを享受する人々、さらにはコミュニティとの結びつきを再定義しています。イノベーションは、すべての人がアクセスでき、すべての人を念頭に置いて構築された文化を提供できるのでしょうか。コミュニティ、文化施設、アーティストの関係において、こうしたテクノロジーの進歩がもたらす課題とは？

登壇者：

- **アンジェル・ドゥ・ランベルトリ (仏)**
都市計画家、起業家
地理学者、都市計画家。フランスで複数の主要文化施設を管理する、過渡期の都市計画の協同組合 Plateau Urbain の開発ディレクター

- **矢入郁子（日）**
上智大学理工学部教授
人間の行動データや環境センシングデータなどのノイズの多い複雑な時系列データの深層学習モデルの開発。社会のニーズやシーズをAI、社会的弱者、情報弱者、ユニバーサルデザインなど多角的な観点から研究。
- **竹内春華（日）**
山古志住民会議代表
人口800人の限界集落が「NFT」を発行する。この「デジタルアート x 電子住民票」としての「NFT」でコミュニティの再生を目指す。
- **ジュスティーンヌ・ロルカ（日）**
InCahoots CEO
障害者が、その受入れにまだ適応できていない文化遺産を訪問できるよう、360°テクノロジー（360ビデオ）で代替手段を提供。テクノロジーを文化とユニバーサル・アクセシビリティに役立てることを目指す。フランスで数々のスタートアップ表彰に輝く。
- **モデレーター 保坂健二郎（日）**
滋賀県立美術館館長
東京国立近代美術館を経て現職。フランス・バーコン展等を手掛け、アール・ブリュットの研究等の傍ら、都市のヴィジョン、アート振興など多くの委員会の委員を務める。

17時50分

総括 小崎哲哉 京都芸術大学大学院教授、文筆家、プロデューサー

18時00分

シンポジウム終了

日仏文化シンポジウム事務局

広報に関するお問い合わせ

担当：城内 笑 じょうないえみ（株式会社ブレイン）

1003culture@brain-net.co.jp tel. : 070-1189-1270

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-2-22 青山熊野神社ビル4F